

鳥取大学研究成果リポジトリ

Tottori University research result repository

タイトル Title	「一式飾り」探訪記：第5回 伝統の中身とは？
著者 Author(s)	Takahashi, Kenji
掲載誌・巻号・ページ Citation	島根日日新聞：5 - 5
刊行日 Issue Date	2018-03-28
資源タイプ Resource Type	論文 / Article
版区分 Resource Version	出版社版 / Publisher
権利 Rights	注があるものを除き、この著作物は日本国著作権法により保護されています。 / This work is protected under Japanese Copyright Law unless otherwise noted.
DOI	
URL	http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6232

「一式飾り」探訪記

鳥取大学地域学部准教授 高橋 健司

第5回

だけいるだろう
か。かく言う私
も、この問いに答
えるのは容易では
なく、答えを思案
し続けている。

2016年10

問題ではない。「一式飾り」
の伝統の中身を問われて、き
ちんと答えられる大人がどれ

大阪にある国立民族学博物館

の「大見世物展」に揃って出
品されると聞いて、私は学生
たちと共に訪ねた。

ところが会場で目にしたの
は、「人間ポンプ」や「のぞ
きからくり」など、興業とし
て行われていた見世物が中
心で、「一式飾り」は2階の
片隅にひっそりと飾られてい
た。その姿を見て、私も学生
もがっかりすると同時に、「一
式飾り」は見世物の伝統なの
かと、展示のコンセプトに対
する疑問が湧いてきた。

後日、「大見世物展」を見
てきた平田と法勝寺の人たち
双方に感想を聞くと、私たち
同様、違和感を覚えた方が少
なくなかった。地域の祭りで
目にする作品とは余りに違っ
て見えた。展示作品の制作
者自身が話されていた。

江戸時代に隆盛した多種多
様な見世物から、「一式飾り」
が大きな影響を受けているの
は確かだと思いが、プロの興
行師による見世物と、地域の
人たちが手弁当で作る「一式
飾り」を、同列に扱えるのか
疑問である。

また「一式飾り」を、江戸

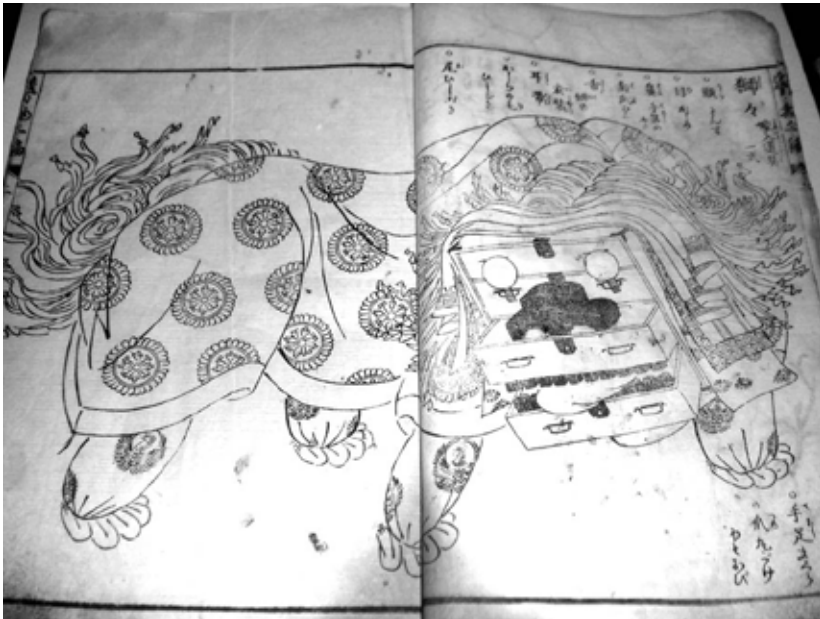
や上方で流行した見世物が地
方に広まったものと見なす
都市中心の見方に対しても、
異議を申し立てたい気がす
る。山陰の「一式飾り」は上
方文化の単なるコピーではな
い。

そこで今回は、鳥取県南部
町の法勝寺地区に現存する
『造物趣向種』(つくりもの
しゅこうのたね)という、江
戸時代後期に大阪で出版され
た本を取り上げる。これは庶
民の間で流行した「造り物」
すなわち「一式飾り」を紹介
した本であり、写真の嫁入り
道具一式を見立てた「獅子」
のような作品例が多数掲載さ
れている。この本を見て、当
時の人々はさまざまに道具「
式」による「見立て」を学び、
実際に作品を作って楽しんで
と考えられる。

ほんのほろになるまで使い込
まれた『造物趣向種』は、明
治時代以降も地域の人たちが
本をヒントに作品作りに興じ
てきたことを物語っている。

「一式飾り」の伝統の中身と
は、愛すべき「見立て遊び」
ではないだろうか。

伝統の中身とは？



これまでの連載をお読み
になった方は、私が「一式飾
り」をただ調べに巡っている
ような印象をお持ちかもしれ
ない。私は祭りの調査と併せ
て、地域の子どもたちに「一
式飾り」を伝えようと、研究
室の学生と地元の小・中学校
や高校を訪ねている。

その際、いつも気になるこ
とがある。子どもたちが一様
に『一式飾り』は伝統だか
ら価値があると話すのであ
る。その一体どこが問題な
のかと疑問に思われるかもし
れないが、伝統と呼ばれるも
のは何でも、最初から価値が
あると決めつけていないだろ
うか。

実際、子どもたちに「伝統
のどんなところに価値がある
の？」と、少し意地悪な質問
をすると、皆黙り込んでしま
う。これは単に子どもだけの